

オオサンショウウオ *Andrias japonicus* (Temminck)

【選定理由】

県下に確実に生息しているのは木曾川の犬山頭首工及び瀬戸市の蛇ヶ洞川の 2 か所のみである。木曾川の集団は個体数は多いが繁殖はわずかし確認されていない。瀬戸市の生息地は繁殖も確認されているが、生息域が狭く上流部の環境条件が悪い。将来絶滅危惧 I A 類に移行する可能性が高い。

【形態】

頭部は扁平で大きく、体には多数のイボ状突起を持つ。体側から四肢の後面にかけて皮膚のヒダがある。前肢は 4 本、後肢は 5 本の指を持つ。尾は著しく側偏する。背面は暗褐色で、不規則な黒色斑紋を持つ。体長は雌雄とも 600~700mm のものが多いが、最大 1,500mm にもなる。

【分布の概要】

日本固有種。本県及び、岐阜県以西の本州、四国、九州の一部に生息する。県内では犬山市の木曾川と瀬戸市の蛇ヶ洞川の 2 地点のみ。ただ、木曾川の集団は岐阜県境に位置し、高密度の集団が見られるのは岐阜県側である。愛知県側では目撃情報や流入河川での記録はあるものの、安定した集団が生息している状況にはなく、調査も十分行われていない。

【生息地の環境／生態的特性】

山間の溪流または山間の水田地帯を流れる川底が岩盤または砂礫などの河川に生息する。瀬戸市の蛇ヶ洞川は周辺に人家や農地があり、生息域は狭い。川岸にある洞穴などが生息場所になっていて、夕方からはいだし採食を行う。産卵は雄の専有する別の巣穴で行われる。専有雄は卵を孵化まで管理する。卵は寒天質の 2 本の長いひもの中で数珠状に連なる。産卵数は 400~600 個。変態後も終生水中で過ごす。成体は、魚、カエル、爬虫類、貝、サワガニ等を、幼生は水生昆虫などを食べる。

【現在の生息状況／減少の要因】

木曾川の集団では長らく繁殖が確認されてこなかったが、駒田他 (2012) によって卵と幼生が報告された。ただし、この地点の生息状況は過密であり、巣穴に利用できる環境にも乏しいことから、活発な繁殖活動を行っているとは思えない。一方、瀬戸市の蛇ヶ洞川では、確実に繁殖が行われている。ただ、この地点には上流部に産廃処分場があり、河川の水質変動が懸念される。

【保全上の留意点】

蛇ヶ洞川では人工巣穴などが設置され成果を上げている。産廃処分場等上流施設の排水処理を適切に行うなど、生息環境の保全に努める必要がある。

【特記事項】

瀬戸市の集団は本種の分布の東限になることから、生物地理学的にも重要な生息地と考えられる。なお、木曾川の集団では、1 個体のみ中国地方に見られる遺伝子型が見つかっており、この個体に関しては人為的な移入が疑われる (Matsui et al., 2018)。

国指定特別天然記念物であり、種の保存法で国際希少野生動物種に指定されている。

【引用文献】

駒田格知・杉山 章・松井正文, 2012. 木曾川犬山頭首工付近におけるオオサンショウウオの生息状況について: 2010 年度 調査結果. 淡水魚類研究会会報 17/18: 1-8.

M. Matsui, N. Komada, K. Yamada, M. Takada, K. Nishikawa, A. Tominaga, and T. Tanaka-Ueno, 2018. Genetic uniformity of Japanese giant salamander (Amphibia, Caudata) from Kiso River, central Japan. Current Herpetology 37(1): 23-29.



瀬戸市蛇ヶ洞川, 2012 年 7 月 28 日, 岩井紀子 撮影

県内分布図 (個体群の定着が確認されている地点のみ)

